

## 蠟梅 Now

「平成 24 年 7 月九州北部豪雨」。気象庁は、顕著な災害を起こした現象について、その経験や教訓を後世に伝承する目的で、命名している。災害の気象要因は活発な梅雨前線による集中豪雨で、人的被害は 30 人を超える死亡、行方不明が発生する痛ましいものとなった。気象災害で命名されたのは、昭和 29 年「洞爺丸台風」から数えて 25 例目だが、直近の 10 年間では 8 例目にあたり、近年、大規模な気象災害が頻発しているといえる。今回、気象庁が「これまでに経験したことのないような大雨」という表現で気象情報を発表したのが、今後も、想定できないような大雨が起こる可能性があるという。

気象研究所は、1 日に 600 ミリを超える猛烈な雨が降る地域が全国各地に広がるとの予測をまとめた。温暖化で日本近海の水温が上がって水蒸気量が増え、梅雨前線や台風の影響が重なると、大雨を降らす雲が次々と発生するようになるという。今回の試算は 2075～2100 年に、世界の平均気温が現在より 2.9℃上昇すると想定してまとめた。

これまでの経験や教訓を活かし、日ごろから防災意識を高め、十分な備えをしておくことが望まれる。

フェニックスの如く、がんばろう 日本！

閑話休題。

当法人のシンボルツリー「蠟梅」は、欧州に広がる金融市場の混乱とその影響もあって展望が開けない日本、加えて政局の混迷が閉塞感を醸成する環境の中であって、暑さにめげることもなく粛々と生命活動を営んでいる。生命の維持と繁栄を求める、人間が封じ込めつつある本能に、しっかりと活力の源泉を見出しているようである。親のややしょげてるかのような様子は気になるが・・・。

蠟梅 2 世のその後。昨年 10 月末に播種、11 月半ばの発芽、そして前号で紹介した双葉から本葉が覗いている状況から、双葉を残してはいるが、本葉がしっかりと主張し、成長へと逞しく歩み始めた。

もう暫く暑さを削ぎながら、鉢植えの窮屈な世界から大きな大地への移植を進めるのか、他の選択肢を探るのか、将来展望を描いてみる。



### 《発行者》

特定非営利活動法人 未来技術フォーラム神戸

事務局長 大森 信

〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町 4-2-7

TEL&FAX : 050-2014-2293 (IP Phone)

E-mail : info@npo-ftfk.or.jp

URL : <http://www.npo-ftfk.or.jp>